

「モンゴル系諸民族の文学と文化の遺産・伝統・革新——
ナ・サイチンガ（ナ・サイントソクト）生誕 110 周年」国際学術会議

岡田 和行

2024年8月21日（水）、「内モンゴル近現代文学の創始者でありモンゴル系諸民族文学の著名な代表者であるナ・サイチンガ〔1914-1973〕生誕110周年記念『モンゴル系諸民族の文学と文化の遺産・伝統・革新——ナ・サイチンガ（ナ・サイントソクト）生誕110周年』国際学術会議」（モンゴル語では“Өвөр Монголын орчин, одоо үеийн уран зохиолын үндэслэгчийн нэг, Монгол туургатны уран зохиолын нэрт төлөөлөгч На.Сайчунгагийн мэндэлсний 110 жилийн ойд зориулсан “Монгол туургатны уран зохиол, соёлын өв, уламжлал, шинэчлэл: На.Сайчунга (На.Сайнцогт) - 110” олон улсын эрдэм шинжилгээний хурал”)が、モンゴル国の首都ウランバートルにあるモンゴル国立大学で開催された。本会議は、モンゴル国立大学とモンゴル科学アカデミー人文科学部門協議会が共催し、文芸誌『季節と作家』が協賛して組織され、モンゴル、日本、中国、ロシアの4か国から研究者が参加した。本会議の議長はS.バイガルサイハン (S.Baigalsaikhan) モンゴル科学アカデミー人文科学部門協議会委員（モンゴル国科学功労者、文献学博士 [Sc. D]、教授）とB.ムンフバヤル (B.Munkhbayar) モンゴル科学アカデミー言語文学研究所主任研究員が担当した。

8月21日午前9時、モンゴル国立大学教員学生啓発センター5階の大会議室（502号室）で開催された開会式は、S.バイガルサイハン教授の司会により、G.ガルバヤル (G.Galbayar) モンゴル国立大学副学長の開会の辞で始まり、小長谷有紀 (Konagaya Yuki) 国際モンゴル学会会長の祝辞（代読）、L.ボルド (L.Bold) モンゴル科学アカデミー人文科学部門協議会議長・言語文学研究所主任研究員（アカデミー正会員・モンゴル国科学功労者）の祝辞、B.バヤスガラン (B.Bayasgalan) 国立公共政策アカデミー経営学院長の祝辞（代読）と続いた。次に基調講演として、S.バイガルサイハン教授の「モンゴルと中国の文学関係を研究するための理論と方法論の問題」、Ts.バトバヤル (Ts.Batbayar) モンゴル科学アカデミー歴史学・民族学研究所主任研究員（アカデミー正会員・モンゴル国科学功労者）とG.バトトゥシグ (G.Battushig) 修士の「1945年の解放戦争と内モンゴル人の運命——ドガルスレンとサイチンガを事例にして」という二つの発表があった。その後、1941年にシリングル盟西スニト旗に設立された「家政女子実践学校」の生徒だったオイロビーン・アリオンゲレル (Oiroviin Ariungerel) さんが、恩師サイチンガの思い出を語る印象的なプログラムがあった。最後に、御年90歳の田中克彦 (Tanaka Katsuhiko) 一橋大学名誉教授のあいさつがあり、会議参加者の集合写真撮影後、ティーブレイクに入った。

引き続き同会場で午前11時から、S.バイガルサイハン教授とB.ムンフバヤル主任研究員を会議座長として研究発表が始まった。以下、発表者の氏名、所属、発表題目を順に紹介する。

1. 岡田和行 (Okada Kazuyuki) 東京外国語大学名誉教授（日本モンゴル文学会会長）「サイチンガの日本観の変化について（ウランバートル留学期に書いたいくつかの詩を例にして）」

2. 二木博史 (Futaki Hiroshi) 東京外国語大学名誉教授「主席府出版社からサイチングの五つの作品を1941～1944年に出版した意義」
3. R.オトゴンバートル (R.Otgonbaatar) モンゴル科学アカデミー言語文学研究所元主任研究員 (チベット研究室元室長)「サイチングのいくつかの詩について」
4. 都馬バイカル (Toba Baikal) 桜美林大学リベラルアーツ学群教授「ナ・サイチング研究の歴史的道程」
5. バヤル・S.ドガロフ (Bayar S.Dogarov) ロシア連邦科学アカデミーシベリア支部モンゴル学・仏教学・チベット学研究所主任研究員「ナ・サインツォクト——タシケント会議〔第1回アジア・アフリカ作家会議 (1958)〕とブリヤートの友人たち」
6. ボヤンバートル (Buyanbaatar) 内モンゴル師範大学モンゴル学学院教授「サイチング——人間に関する近代的認識」

【質疑応答】

【昼食休憩】

引き続き午後2時から、G.ガルバヤル副学長と岡田和行を会議座長として研究発表が始まった。以下、発表者の氏名、所属、発表題目を順に紹介する。

【発表前にN.ソブド (N.Suvd) 国家賞受賞俳優・国民栄誉俳優のあいさつがあった。】

1. テレングト・アイトル (Telengut Aitor) 北海学園大学人文学部教授「激変時代における文学の靈感と写実——サイチング初期作品に見られる靈感 (オンゴン・詩的狂気) について」
2. O.サグワレンツェン (O.Lkhagvarentsen) 国立公共政策アカデミー経営学院講師 (モンゴル国経済功労者)「党幹部養成大学で1945～1947年に学んでいた内モンゴル人たち」
3. L.S.ダンピロワ (L.S.Dampilova) ロシア連邦科学アカデミーシベリア支部モンゴル学・仏教学・チベット学研究所文学・口承文芸研究部門研究員「モンゴルの民衆韻文における民族的特性の兆候となる神話的モチーフ」
4. B.ヒシグスフ (B.Khishigsukh) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術研究科長・准教授「サイチングの文学研究にナ・ハスチメグの占める位置」
5. G.ツォグゾルマー (G.Tsogzolmaa) モンゴル国立教育大学国際協力担当部長・教授「ナ・サインツォクトの作品における教育啓蒙思想 (『われらがモンゴル興隆の歌』の作品を例にして)」
6. L.チョローンバートル (L.Chuluunbaatar) モンゴル国民大学教授「ナ・サインツォクトの作品におけるメタファーあるいは隠喩について」
7. G.ゲレルマー (G.Gerelmaa) モンゴル科学アカデミー言語文学研究所主任研究員「サイチングの婦人啓蒙思想」
8. L.アルタンザヤー (L.Altanzaya) モンゴル国立教育大学社会人文科学部准教授「サイチングの著作『心の光』のいくつかの特徴について」

【休憩】

9. 内田孝 (Uchida Takashi) 氏「日本人の目から見たサイチングの人物像」

【この後にL.ダシニヤム (L.Dashnyam) モンゴル国大統領附属国家言語政策評議会議長のあいさつがあった。】

10. A.バヤルマー (A.Bayarmaa) 国立公共政策アカデミー学術研究員「ナ・サイチンガとモンゴル〔人民共和〕国文化芸術代表団との関係について」
11. J.ナランチメグ (J.Naranchimeg) モンゴル国立博物館学術研究員「モンゴル国立博物館に所蔵されているある勲章について」
12. 王芳 (Wang Fang, 中国) モンゴル国立教育大学社会人文科学部外国語学研究科博士研究生「ナ・サイイツォクトの作品における道德思想」
13. 麗麗 (丽丽, Li Li, 中国) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術研究科博士研究生「アラシャー韻文の詩学のいくつかの問題」
14. A.ムンフオルギル (A.Munkh-Orgil) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術研究科准教授「内モンゴルの中編小説のジャンルにおける詩学の特徴」
15. 瑪瑙花 (玛瑙花, Manaohua, 中国) 内モンゴル師範大学モンゴル学学院講師「サイチンガの芸術作品における自然と一体化した少女の描写とその象徴的な意味」
16. B.ムンフバヤル (B.Munkhbayar) 主任研究員／茹樂瑪 (茹乐玛, Rulema, 中国) モンゴル国立大学総合科学部文学芸術研究科博士研究生「『タシケント 1958』の意味」
17. G.ガルバヤル (G.Galbayar) モンゴル国立大学副学長「モンゴル文学における図形詩」

【質疑応答】

質疑応答後、バイガル桜美林大学教授が主宰して 2023 年からモンゴル国側の研究協力者とともに編纂し、ウランバートルの「ナンディル」出版社から刊行されている叢書『サイチンガ研究と資料』（この時点で全 8 冊刊行）の趣旨説明と贈呈式が予定されていたが、参加している関係者にすでに配布され、時間的な制約もあったので行われなかった。最後は S.バイガルサイハン教授の閉会の辞があり、午後 7 時ごろにケータリングの夕食が参加者に提供され、食後順次散会となった。

今回、中国側のサイチンガ研究に関わる主要な研究者が諸般の事情で参加できなかったことは残念だったが、本会議が、日本側関係者とモンゴル側関係者が連携して、モンゴル国で初めて開催に漕ぎつけたサイチンガ関係国際学会であったことには大きな意義があった。また事前に出版された『「モンゴル系諸民族の文学と文化の遺産・伝統・革新——ナ・サイチンガ（ナ・サイイツォクト）生誕 110 周年」国際学術会議発表論文集』（編集者 B.ムンフバヤル、「ナンディル」出版社、ウランバートル、2024 年、456 頁）¹には、今回の会議参加者の論文だけでなく、不参加を余儀なくされた中国側一部研究者の論文も収録されており、本会議が、不完全な形ではあるが、現在の国際的なサイチンガ研究の状況とその到達点を示すことができたことにも一定の意義があったと言えよう。

¹ “Монгол туургатны уран зохиол, соёлын өв, уламжлал, шинэчлэл: На Сайчунга (На Сайнцогт) - 110” олон улсын эрдэм шинжилгээний хурлын илтгэлийн эмхэтгэл, Редактор Б.Мөнхбаяр, “Нандир” ХХК, Улаанбаатар, 2024, 456 х. (ISBN: 978-9919-9079-3-8)